

市町村における発掘調査の概要
平成 25 年度（2013 年度）

平成25年度 市町村教育委員会による発掘調査一覧

番号	管内	市町村	遺跡名	調査理由	面積 m ²	備考
1	石狩	札幌市	K446遺跡	開発事業	道路(市道新設)	640
2		札幌市	H508遺跡	詳細分布	内容確認	1,050
3		札幌市	H532遺跡	開発事業	公園造成	950
4		札幌市	H542遺跡	開発事業	公園造成	4,200
5		千歳市	オサツ8遺跡	開発事業	公園造成	251
6		千歳市	市内遺跡	詳細分布	範囲・内容確認	132
7		恵庭市	ユカンボシE1遺跡	開発事業	市道改良・下水道	2,075
8		恵庭市	ユカンボシE2遺跡	開発事業	個人住宅	24
9		恵庭市	西島松10遺跡	開発事業	区画整理	45
10	渡島	函館市	特別史跡五稜郭跡	史跡整備		20 法125条
11		函館市	史跡垣ノ島遺跡	史跡整備		96 法125条
12		函館市	東山B遺跡	開発事業	道路(函館新外環状)	2,500
13		函館市	サイベ沢遺跡	開発事業	河川改良	2,478
14		函館市	桔梗2遺跡	開発事業	店舗建設に伴う造成	260
15		函館市	榎法華遺跡	開発事業	個人住宅	56
16		函館市	亀田中野2遺跡	開発事業	道路(函館新外環状)	1,252
17		松前町	史跡松前氏城跡福山城跡	史跡整備		42 法125条
18		北斗市	茂辺地4遺跡	開発事業	道路(高規格道)	3,786
19		北斗市	村前ノ沢遺跡	開発事業	道路(高規格道)	1,443
20	森町	史跡鷺ノ木遺跡	史跡整備		113 法125条	
21	後志	余市町	登町4遺跡	開発事業	道路(横断道)	3,000
22	上川	下川町	上名寄チャシ跡	開発事業	河川改修	1,000
23	宗谷	浜頓別町	ブタウス遺跡	開発事業	道路(国道防災)	2,859
24	オホーツク	美幌町	美里1遺跡	開発事業	その他建物	54 試掘調査
25		美幌町	美富6遺跡	開発事業	農業関連	10 試掘調査
26		美幌町	駒生9遺跡	開発事業	農業関連	66 試掘調査
27		美幌町	美和2遺跡	開発事業	農業関連	35 試掘調査
28		津別町	活汲3遺跡	開発事業	農業関連	84 試掘調査
29		津別町	活汲4遺跡	開発事業	農業関連	76 試掘調査
30		津別町	恩根3遺跡	開発事業	農業関連	364 試掘調査
31		津別町	タッコブ5遺跡	開発事業	農業関連	26 試掘調査
32		津別町	恩根5遺跡	開発事業	農業関連	104 試掘調査
33		津別町	タッコブ6遺跡	開発事業	農業関連	276 試掘調査
34		津別町	美都5遺跡	開発事業	農業関連	52 試掘調査
35		津別町	可能性地	開発事業	農業関連	144 試掘調査
36		津別町	可能性地	開発事業	農業関連	34 試掘調査
37		斜里町	チャシコツ岬上遺跡	詳細分布	内容確認	20
38		斜里町	来運1遺跡	詳細分布	内容確認	28
39		斜里町	川上1遺跡	開発事業	道路(町道改良)	820
40		胆振	室蘭市	史跡東蝦夷地南部藩陣屋跡モロラン陣屋跡	史跡整備	
41	室蘭市		中島町遺跡	詳細分布	内容確認	27
42	苫小牧市		柏原地区所在遺跡	詳細分布	範囲・内容確認	1,674 柏原46~51遺跡を発見
43	苫小牧市		美沢24遺跡	開発事業	農業関連(草地造成)	5,000
44	苫小牧市		美々坂遺跡	開発事業	法面造成	80
45	伊達市		カムイタブコブ下遺跡	学術研究		110
46	洞爺湖町		栄2遺跡	開発事業	住宅建設	85
47	厚真町		シヨロマ1遺跡	開発事業	ダム建設	8,933
48	厚真町		シヨロマ2遺跡	開発事業	ダム建設	2,305
49	厚真町		シヨロマ3遺跡	開発事業	ダム建設	1,350
50	むかわ町	二宮4遺跡	開発事業	メガソーラー建設	1,000	
51	日高	平取町	豊糠8遺跡	開発事業	ダム建設	974
52	釧路	厚岸町	尾幌貝塚	詳細分布	内容確認	3
53		厚岸町	オカレンボウシ貝塚	詳細分布	内容確認	3

平成25年度（公財）北海道埋蔵文化財センターによる発掘調査一覧

番号	管内	市町村	遺 跡 名	調 査 理 由		面 積 m ²	備 考
1	石狩	千歳市	キウス3遺跡	開発事業	道路	3,663	
2		千歳市	キウス11遺跡	開発事業	道路	963	
3	渡島	木古内町	大平遺跡	開発事業	道路	1,700	
4		木古内町	新道4遺跡	開発事業	鉄道(新幹線)	745	
5		木古内町	大平4遺跡	開発事業	道路	1,420	
6		木古内町	札苺7遺跡	開発事業	道路	10,690	
7	空知	芦別市	野花南周堤墓群	詳細分布	重要遺跡確認調査	118	
8		長沼町	幌内A遺跡	開発事業	農業関連(用水路)	1,043	
9	オホーツク	遠軽町	金山6遺跡	開発事業	道路	1,587	
10	胆振	厚真町	オニキシベ1遺跡	開発事業	ダム	3,314	
11		厚真町	厚幌1遺跡	開発事業	農業関連(導水路)	1,400	
12		厚真町	イクバンドユクチセ2遺跡	開発事業	ダム	1,174	
13		厚真町	イクバンドユクチセ3遺跡	開発事業	ダム	9,321	
14		厚真町	上幌内3遺跡	開発事業	ダム	9,025	
15		厚真町	上幌内5遺跡	開発事業	ダム	300	

計 46,463

※ 詳しくは、公益財団法人北海道埋蔵文化財センターへお問い合わせください。

<http://www.domaibun.or.jp/index1.htm>

平成25年度 大学等による発掘調査一覧

番号	管内	市町村	遺 跡 名	調 査 理 由		面積 m ²	調査主体
1	石狩	札幌市	K39遺跡	開発事業	その他建物(研究施設新設)	493	北海道大学埋蔵文化財調査室
2			K39遺跡	開発事業	水道(雨水排水施設整備)	161	北海道大学埋蔵文化財調査室
3			K39遺跡	開発事業	その他建物(研究施設新営)	729	北海道大学埋蔵文化財調査室
4			K39遺跡	開発事業	その他建物(研究施設新営)	3,604	北海道大学埋蔵文化財調査室
5	後志	倶知安町	峠下遺跡	学術研究		56	札幌国際大学
6	宗谷	浜頓別町	クツチャロ湖畔遺跡	学術研究		98	新美倫子
7		礼文町	浜中2遺跡	学術研究		31	千葉大学文学部
8			浜中2遺跡	学術研究		36	北海道大学 アイヌ・先住民研究センター
9	オホーツク	北見市	大島2(TK-11)遺跡	学術研究		248	東京大学大学院人文社会系研究科
10			吉井沢遺跡	学術研究		47	佐藤宏之
11		斜里町	チャシコツ岬下B遺跡	学術研究		20	北海道大学 アイヌ・先住民研究センター
12		置戸町	勝山2遺跡	学術研究		21	鶴丸俊明
13		湧別町	湧別遺跡	学術研究		45	福田正宏
14	胆振	豊浦町	礼文華遺跡	学術研究		7	小杉康
15	十勝	上士幌町	嶋木遺跡	学術研究		69	首都大学東京都市教養学部
16		大樹町	浜大樹2遺跡	学術研究		44	深澤百合子
17	根室	中標津町	当幌川遺跡	学術研究		219	千葉大学文学部

計 5,928

※ 詳しくは、各大学などへお問い合わせください。

遺跡の位置などは、北の遺跡案内をご覧ください。

<http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/bnh/kitanoisekiannai.htm>

調査理由：開発事業(道路)

調査地：札幌市北区麻生9丁目

調査主体：札幌市教育委員会(札幌市埋蔵文化財センター)

調査期間：平成25年9月6日～10月31日

調査面積：640 m²

調査の概要

遺跡は札幌市営地下鉄南北線の麻生駅から北東へ約700m、創成川水再生プラザの西隣に位置しています。現在の遺跡付近の標高は約5～6mです。昭和53年に麻生球場建設に伴って発掘調査が行われ、擦文時代の竪穴住居跡が11軒見つかっています。今回の発掘調査では擦文時代前期から中期と考えられる3枚の遺物包含層が確認されました。

もっとも新しい1枚目の遺物包含層からは炭化物集中が2か所見つかかり、擦文土器や須恵器、礫が出土しました。

2枚目の遺物包含層からの遺構は、竪穴住居跡1軒、屋外炉跡2か所、炭化物集中1か所、柱穴3基が見つかりました。竪穴住居跡は半分ほどが現代の攪乱によって壊されていましたが、残されていた部分から推定して1辺が約7mの隅丸方形をしていたと考えられます。竪穴住居跡の南壁にはカマドがつくりつけられており、壁寄りの床面から柱穴2基が見つかりました。遺物は発掘区や竪穴住居跡の中から擦文土器や須恵器、土製品、礫などが出土しました。

もっとも古い3枚目の遺物包含層からは擦文土器や礫が出土しましたが、遺構は見つかりませんでした。

発掘調査の成果は、平成26年度末に発掘調査報告書として刊行する予定です。



位置図



竪穴住居跡完掘状況

この遺跡についてのお問い合わせや札幌市の遺跡をもっと知りたい方は

札幌市埋蔵文化財センターへ

所在地：札幌市中央区南22条西13丁目

電話：011-512-5430

開館時間：8時45分から17時15分まで

閉館日：祝日、振替休日、年末年始。ただし、5月3～5日、11月3日は開館

さっぽろし えっち ご ひやくはち い せき
札幌市 H508遺跡 (登録番号 A-01-508)

調査理由：詳細分布

調査地：札幌市東区丘珠町 571, 572, 574, 575

調査主体：札幌市教育委員会(札幌市埋蔵文化財センター)

調査期間：平成 25 年 5 月 20 日～10 月 9 日

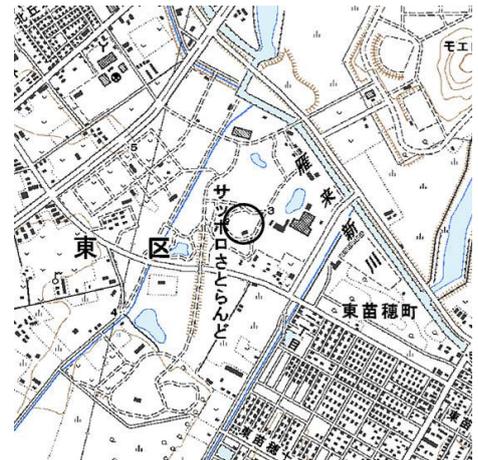
調査面積：1,050 m²

調査の概要

遺跡は、東区の札幌市農業体験交流施設「サッポロさとらんど」内に所在します。現在の標高は約 5m です。平成 4・5 年に実施した遺跡の有無を調べる予備的な調査(試掘調査)で、市内でも有数の広がりを持つ縄文時代晩期の遺跡であることが明らかになり、現在は盛土され、地下に現状のまま保存されています。この遺跡を活用して遺跡公園を整備する事業が平成 23 年度に「第 3 次札幌新まちづくり計画」に位置づけられ、平成 24 年度には、遺跡の位置・範囲を正確に把握するために測量調査を行いました。

平成 25 年度には、測量調査とともに遺跡の内容をより具体的に把握するために、必要最低限の範囲を対象とした調査(部分的な発掘調査)を実施しました。確認調査の結果、本遺跡が複数枚の遺物包含層からなる縄文時代晩期の多層遺跡であることが判明し、当時の河川沿いに形成された自然堤防と推測される微高地上に、屋外炉跡等の遺構と土器や石器等の遺物が集中して分布していることがわかりました。屋外炉跡の土壌を部分的に採取して内容物を調べた結果、黒曜石等の石器の碎片やクルミ属の内果皮片等が多く含まれ、その他にもサケ科等の魚類の骨片やチョウザメ科の鱗板片、ヒエ属の種子等が含まれていることがわかりました。

測量調査や確認調査は来年度も引き続き実施する予定です。



位置図



調査状況

この遺跡についてのお問い合わせや札幌市の遺跡をもっと知りたい方は

札幌市埋蔵文化財センターへ

所在地：札幌市中央区南 22 条西 13 丁目

電話：011-512-5430

開館時間：8 時 45 分から 17 時 15 分まで

閉館日：祝日、振替休日、年末年始。ただし、5 月 3～5 日、11 月 3 日は開館

さっぽろ し えっちごひやくさんじゅうに い せき
札幌市 H 5 3 2 遺跡 (登録番号 A-01-532)

調査理由：開発事業(公園造成)

調査地：札幌市東区栄町 919, 920, 921, 963

調査主体：札幌市教育委員会(札幌市埋蔵文化財センター)

調査期間：平成 25 年 5 月 27 日～8 月 30 日

調査面積：950 m²

調査の概要

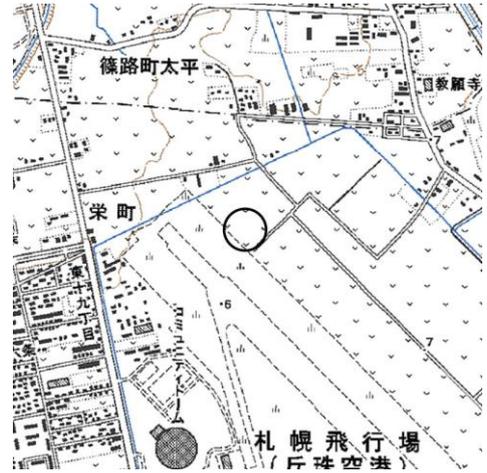
遺跡は札幌市営地下鉄東豊線の栄町駅から北東方向に直線距離で約 1.3km、札幌飛行場(丘珠空港)の滑走路北東側に位置し、地形的には札幌市北部地域に広がる沖積地にあたります。現在の標高は約 5～6m です。

調査の結果、河川沿いの微高地から続縄文時代前期後半頃のものと考えられる遺構や遺物が見つかりました。遺構は屋外炉跡 1 か所と剥片集中 2 か所です。屋外炉跡の火床は被熱により土が変色しており、上面に骨片を含んだ土が不整形に広がっていました。2 か所の剥片集中は集中する剥片の石材が異なり、一方は黒曜石製、もう一方は片岩製です。

遺物は、続縄文時代前期後半の後北 B 式～後北 C 1 式と考えられる土器や矢じり・ナイフなどの剥片石器、磨製石斧や敲き石などの礫石器が出土しています。

調査区南側と中央部では埋没河川が確認されました。調査区南側の埋没河川は調査区外へ続くため川幅は不明です。この河川に沿うように遺構や遺物が見つかることから、少なくとも遺跡が形成された続縄文時代前期後半頃は河川が存在していたものと考えられます。調査区中央部の埋没河川は川幅が約 5m で、遺物包含層を削っていたことから、遺跡が形成された後に流路として形成されたものと考えられます。

発掘調査の成果は、平成 26 年度末に発掘調査報告書として刊行する予定です。



位置図



遺跡全景

この遺跡についてのお問い合わせや札幌市の遺跡をもっと知りたい方は

札幌市埋蔵文化財センターへ

所在地：札幌市中央区南 22 条西 13 丁目

電話：011-512-5430

開館時間：8 時 45 分から 17 時 15 分まで

閉館日：祝日、振替休日、年末年始。ただし、5 月 3～5 日、11 月 3 日は開館

さっぽろ し えっちごひやくよんじゅう に いせき
札幌市 H 5 4 2 遺跡 (登録番号 A-01-542)

調査理由：開発事業(公園造成)

調査地：札幌市東区栄町 617, 625

調査主体：札幌市教育委員会(札幌市埋蔵文化財センター)

調査期間：平成 25 年 5 月 27 日～8 月 30 日

調査面積：4,200 m²

調査の概要

遺跡は札幌市営地下鉄東豊線の栄町駅から北東方向に直線距離で約 1.5km、札幌飛行場(丘珠空港)の滑走路北側に位置し、地形的には札幌市北部地域に広がる沖積地にあたります。現在の標高は約 5m です。

調査の結果、主に調査区の中央部から擦文時代のものと考えられる遺構や遺物が見つかりました。遺構は柱穴 166 基や屋外炉跡 1 か所、炭化物集中 1 か所等です。遺物は擦文土器のほかに礫石器が出土しています。

柱穴の平面形は主に円形や楕円形で、直径は 10cm 未満のものや 20cm 前後のものがありました。深さは 10cm 前後のものも多く、深いものは約 90cm のものもありました。一部の柱穴の中からは柱材が見つかりました。今回見つかった柱穴のうち直径の大きな柱穴には、ほぼ等間隔で並び、柱穴内に堆積した土が同質のものがありました。これらは掘立柱建物を構成していた柱穴と考えられます。こうした特徴を持つ柱穴の並びを確認したところ、計 7 棟の掘立柱建物跡が確認できました。柱穴の配置は、総柱式や側柱式と考えられるものが見つっています。また、一部の掘立柱建物跡には重複するものがあるため、構築時期に差があるものと考えられます。遺物包含層から擦文土器が出土していることや周辺における擦文時代の建物跡の調査事例から、これらの柱穴や掘立柱建物跡は擦文時代のものと考えられます。

発掘調査の成果は、平成 26 年度末に発掘調査報告書として刊行する予定です。



位置図



掘立柱建物跡検出状況

この遺跡についてのお問い合わせや札幌市の遺跡をもっと知りたい方は

札幌市埋蔵文化財センターへ

所在地：札幌市中央区南 22 条西 13 丁目

電話：011-512-5430

開館時間：8 時 45 分から 17 時 15 分まで

閉館日：祝日、振替休日、年末年始。ただし、5 月 3～5 日、11 月 3 日は開館

ちとせし おさつはちいせき
千歳市 オサツ8遺跡 (登録番号 A-03-20)

調査理由：開発事業（公園造成）

調査地：千歳市上長都 1020-1・12・30・31・32

調査主体：千歳市教育委員会

調査期間：平成 25 年 5 月 27 日～8 月 9 日

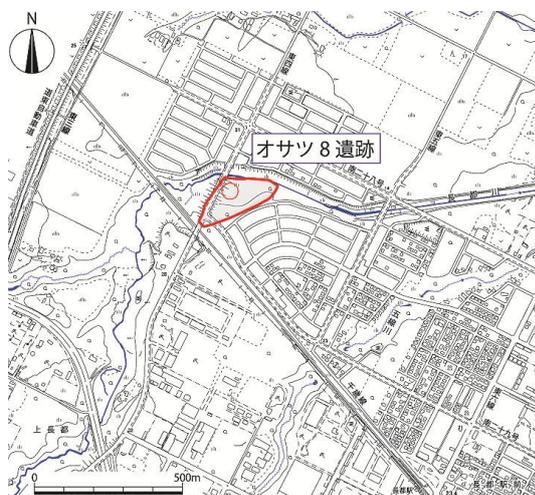
調査面積：251 m²

調査の概要

遺跡は、JR 千歳駅から北西に 4.5km ほど離れた長都川右岸の段丘上に位置し、標高は 13～26m、低位段丘面、傾斜面(標高 16～23m)、高位段丘面に立地しています。

遺跡は昭和 54 年の分布調査で発見され、縄文時代、擦文文化期の遺物包含地として埋蔵文化財包蔵地周知資料に記載されて以来、平成 4 年の土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財試掘調査を経て、現在の範囲となりました。

25 年度の発掘調査は、遺跡北西部の低位段丘面で行いました(地図中の○印)。検出された遺構は縄文時代のもので、竪穴住居跡 4 軒(中期 3 軒)、墓壇(前期)1 基、土坑 3 基(中期 2 基)、炉跡 12 基(中期、後期、晩期)があります。遺物は、現代の攪乱を受けていない地層から土器が約 6,900 点、石器は約 8,800 点(うち剥片・碎片が約 7,600 点)出土しました。縄文時代前期、中期、後期、晩期、続縄文時代、擦文文化期のものがありますが、縄文前期～後期の遺物が約 8 割を占めています。



遺跡位置図



発掘区近景(北より)

この遺跡についてのお問い合わせや千歳市の遺跡をもっと知りたい方は

千歳市埋蔵文化財センター へ

所在地：千歳市長都 42-1

電話・FAX：0123-24-4210

e-mail：maibun@city.chitose.hokkaido.jp

開館時間：9時から17時まで

閉館日：月曜日、月の第2日曜日を除く日曜日、祝日、12月29日～1月3日

ちとせし しないいせき 千歳市 市内遺跡

調査理由：詳細分布

調査地：千歳市中央 1473-1

調査主体：千歳市教育委員会

調査期間：平成 25 年 9 月 30 日～11 月 15 日

調査面積：132 m²

調査の概要

史跡キウス周堤墓群は、JR 千歳駅から北東に 8km ほど離れた、馬追丘陵西麓の丘陵緩斜面、標高 16～20m に立地しています。千歳市は、この史跡指定地周辺の埋蔵文化財の様相を把握することを目的とする詳細分布調査を企画しました。平成 25～26 年度の調査区域は、2 号周堤墓等からなる国道 337 号の東側の指定地の南～東側に隣接する市有地(約 43,000 m²)です。

今年度は、指定地の南側、南北 85～90m、東西 170～180m の範囲(約 15,000 m²)を対象に、20m 間隔を基本として配置した平面規模 1m×3m の試掘坑 44 個の発掘調査を実施しました。調査の対象となる縄文時代～江戸時代の地層(層厚約 50～60cm)は、江戸時代に樽前山から噴出降下した火山灰(層厚約 40cm)に覆われ、遺存状態は良好でした。調査は、表土と火山灰を重機で除去した後、下位の地層を発掘作業員が手掘りして行いました。

埋蔵文化財は 44 個の試掘坑のうち 10 個で確認されました。いずれも遺物のみの発見で、住居跡や墓壇、周堤墓等の遺構は検出されていません。遺物は、土器が 129 点、石器が 9 点出土しました。すべて縄文時代のものです。土器はその特徴から、127 点が後期後葉に位置づけられます。石器の種別は、石鏃、搔器、石斧などです。

今回の調査により、調査対象区域が埋蔵文化財包蔵地であることが判明しました。遺跡は現段階では、縄文時代後期後葉を主体とする縄文時代の遺物包含地と判断されます。



調査状況(南西より、奥はキウス 2 号周堤墓)

この遺跡についてのお問い合わせや千歳市の遺跡をもっと知りたい方は

千歳市埋蔵文化財センター

所在地：千歳市長都 42-1

電話・FAX：0123-24-4210

e-mail：maibun@city.chitose.hokkaido.jp

開館時間：9時から17時まで

閉館日：月曜日、月の第2日曜日を除く日曜日、祝日、12月29日～1月3日

えにわし ゆかんばんしーいちいせき
恵庭市 ユカンボシE1遺跡 (登録番号 A-04-2)

調査理由：開発事業（水道・道路）

調査地：恵庭市恵南 6-90

調査主体：恵庭市教育委員会

調査期間：平成 25 年 5 月 7 日～10 月 24 日

調査面積：2,075 m²

調査の概要

遺跡は JR 恵庭駅から南に 1.5 km ほど離れたユカンボシ川の段丘上(標高約 34m)に位置しています。本遺跡のある地区から土偶が表採されるなど、遺跡は古くから知られていました。今回の調査は平成 24 年度に引き続いて行われた 2 回目の発掘調査です。

縄文時代の遺構は竪穴住居跡や土坑、落とし穴、焼土などが検出されました。竪穴住居跡の時期は中期天神山式期(4,300 年前)で、床面から土器がまとまって出土しました。土坑のうちの一つからは直径約 20cm 前後の礫を素材とした砥石や台石などの石器が 9 個出土しました。アイヌ文化期の遺構は平地住居跡、土坑墓、焼土、礫集中、杭穴などがあります。

遺物は土器や石器など約 10,000 点が見つかりました。土器はいずれも縄文時代のもので、ほとんどが中期の天神山式(約 4,300 年前)です。そのほかに中期柏木川式、後期タブコブ式・手稲式・堂林式などが出土しています。

平成 24 年度の調査では縄文後期後葉、堂林式期の墓地が見つかりましたが、今回の調査では同じ時期の土器は出土したものの、この時期の墓と考えられる遺構は見つからず、墓地は今回調査した範囲には広がらないことがわかりました。

報告書は平成 26 年 3 月に刊行の予定です。



調査状況



竪穴住居跡から出土した土器

恵庭市の遺跡をもっと知りたい方は

恵庭市郷土資料館 へ

所在地：恵庭市南島松 157-2

電話：0123-37-1288

URL：<http://www.city.eniwa.hokkaido.jp/www/genre/000000000000/1373345919868/index.html>

開館時間：9 時 30 分から 17 時まで

閉館日：月曜日・祝日の翌日・毎月最終金曜日・年末年始

えにわし ゆかんばんしーにいせき
恵庭市 ユカンボシE2遺跡 (登載番号 A-04-3)

調査理由：開発事業（住宅）

調査地：恵庭市和光町5丁目5番6号

調査主体：恵庭市教育委員会

調査期間：平成25年6月17日～6月26日

調査面積：24 m²

調査の概要

遺跡は JR 恵庭駅から南に 1.3 km ほど離れたユカンボシ川の右岸段丘上(標高 28～29m)に位置しています。平成 17 年・21 年・23 年にも発掘調査が行われ、縄文時代、擦文時代及びアイヌ文化期の遺構や遺物が多数確認されています。

今回の調査区はユカンボシ川から離れた遺跡の端に位置しており、遺構はアイヌ文化期の焼土と炭化材が各 2 か所、縄文時代の焼土が 5 か所です。樽前 a 降下軽石層(1739 年降下)の直下で確認された 1・2 号炭化材はいずれも板状の材が炭化したものです。1 号炭化材はミズナラやカシワなどのコナラ節で、年代は 15 世紀代と分析されました。試掘調査では敷地の隅で縄文時代後期前葉タプコプ式期の竪穴住居跡が 1 軒見つかりましたが、今回の発掘調査範囲までは及んでいませんでした。

遺物は、試掘調査も含めて土器 133 点、石器 6 点、礫 3 点の計 142 点が出土しました。土器はいずれも縄文時代のもので、大半が後期前葉タプコプ式(約 3,700 年前)です。そのほかに中期円筒土器上層式と天神山式、晩期が少数あります。定型的な石器は石鏃、削器、石斧片、たたき石が出土しました。

報告書は平成 26 年 3 月に刊行の予定です。



遺跡付近を流れるユカンボシ川



炭化材の検出状況

恵庭市の遺跡をもっと知りたい方は

恵庭市郷土資料館 へ

所在地：恵庭市南島松 157-2

電話：0123-37-1288

URL: <http://www.city.eniwa.hokkaido.jp/www/genre/000000000000/1373345919868/index.html>

開館時間：9時30分から17時まで

閉館日：月曜日・祝日の翌日・毎月最終金曜日・年末年始

えにわし にししまつじゅういせき
恵庭市 西島松10遺跡 (掲載番号 A-04-43)

調査理由：開発事業（区画整理・公園造成）

調査地：恵庭市西島松 464-3, 476-1

調査主体：恵庭市教育委員会

調査期間：平成 25 年 5 月 29 日～6 月 6 日

調査面積：45 m²

調査の概要

遺跡は JR 千歳線恵み野駅から約 500m 北西方向に位置し、柏木川中流域の右岸低位段丘上、柏木川に注ぐ旧枝川の右岸にあります。標高は約 25m です。

本遺跡は、昭和 41 年発行の『恵庭遺跡』では西島松南 A 遺跡として紹介され、畑地から採集された土器が掲載されています。このように古くから知られた遺跡ではありましたが、発掘調査が行われるのは今回が初めてです。

今回の調査で見つかった遺構は、土坑 2 基、柱穴・杭穴 3 個があります。

遺物は、縄文時代中期の土器や石鏃などの石器が見つかりました。

報告書は平成 26 年 3 月刊行の予定です。



調査区遠景



出土した石鏃(長さ 3.8cm)

恵庭市の遺跡をもっと知りたい方は

恵庭市郷土資料館 へ

所在地：恵庭市南島松 157-2

電話：0123-37-1288

URL：<http://www.city.eniwa.hokkaido.jp/www/genre/000000000000/1373345919868/index.html>

開館時間：9 時 30 分から 17 時まで

閉館日：月曜日・祝日の翌日・毎月最終金曜日・年末年始

調査理由：史跡整備

調査地：函館市五稜郭町1-1

調査主体：函館市教育委員会

調査期間：平成25年7月8日～7月12日

調査面積：20㎡

調査の概要 発掘調査は、昨年10月に崩落した郭内南西側の本塁土塁の崩落箇所において復旧工事の実施設計を行い、土塁本体の積み土堆積状況の観察および崩落土の堆積状況を確認するために行いました。

○土塁崩落箇所 土塁崩落箇所については、本体の積み土が観察可能な幅約3m、高さ約2.5mの範囲で土塁堆積土の確認を行いました。その結果、土塁堆積土は、土塁頂上部から約1～1.2m下側までは粘質土の割合が多いものの締まりがなく、脆い堆積状況でした。それより下層の堆積土は上層に比べ粘性が高く、締まった状態であることが確認されました。

土塁構築の工法については粘土を層状に突き固める版築ではなく、粘土等を積み上げて整形する敲き土居的工法が用いられたと推定されます。

○崩落土堆積箇所 当該箇所のトレンチ調査によって一定の勾配に沿った形で褐灰色土が検出され、多くの草根が残存していたことから、この面が崩落前の土塁法面であることが確認されました。当該箇所の土塁法尻が周囲よりも前面に突出していたことから追加トレンチを設定したところ、灰白色粘土等の堆積土が確認され、その下層から黒褐色土の平坦面が検出されました。灰白色粘土等の堆積土は土塁本体の堆積土と類似していたことから、過去の崩落による堆積と考えられ、また、平坦面上で湯飲碗破片とガラス杯が出土したことから崩落の時期は大正3(1914)年の公園開放時以降から昭和期までの間と想定されます。



崩落箇所の土層堆積
(北西から)



過去の崩落土堆積と黒褐色土平坦面を検出
(南西から)

この遺跡についてのお問い合わせは

函館市教育委員会生涯学習部文化財課 へ

所在地：函館市東雲町4-13

電話：0138-21-3456

URL：http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/board_of_edu/lifelong_learning/cultural_assets/

調査理由：史跡内容確認

調査地：函館市白尻町 416-2・3、530-1・2、531、532-1

調査主体：函館市教育委員会

調査期間：平成 25 年 6 月 24 日～11 月 13 日

調査面積：96 m²

調査の概要

今年度は今後の整備活用に向けて、未調査 2 地点の調査を実施しました。

【A 地点】 本地点ではこれまで縄文期の整地・削平の痕跡や多数の大型礫の分布が確認されていることから、配石を伴う大規模な遺構を想定し、事前にハンドボーリングにより地中の大型礫の数や分布を確認したうえで、発掘調査を実施しました。

調査の結果、配石遺構 3 基と土坑 2 基を検出しました。このうち 1 基の配石遺構では浅い掘り込みを確認し、1 基の土坑の坑底直上からは炭化材や漆の可能性の考えられる赤色の塗膜片が出土しました。これらの配石遺構や土坑は副葬品と考えられる遺物の存在や覆土が埋め戻されていることから墓と考えられます。出土した遺物は縄文後期前半の土器や石器など約 1,800 点で、ヒスイ製の垂飾品も 1 点出土しました。

【B 地点】 本地点は無名の小沢につながる浅い谷状の地形で、水場に関わる遺構の存在を想定し、土層の堆積や遺構・遺物の有無などを確認するために発掘調査を実施しました。

調査の結果、縄文時代早期後半から前期前半に相当する土層が水成堆積と判断される二次堆積層(砂層)であり、沢地に向かって大きく傾斜している旧地形の状況が確認できました。出土した遺物は縄文早期後半から後期前半の土器や石器など約 190 点です。

報告書は平成 28 年度に刊行の予定です。



配石遺構



ヒスイ製装飾品出土状況

この遺跡についてのお問い合わせは

函館市教育委員会生涯学習部文化財課埋蔵文化財担当 ～

所在地：函館市白尻町 551-1(函館市縄文文化交流センター内)

電話：0138-25-5113

URL：http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/board_of_edu/lifelong_learning/cultural_assets/

調査理由：開発事業(道路)

調査地：函館市東山町 124-34

調査主体：函館市教育委員会

調査実施：特定非営利活動法人 函館市埋蔵文化財事業団

調査期間：平成 25 年 5 月 7 日～9 月 30 日

調査面積：2,500 m²

調査の概要

遺跡は、函館平野東部を流れる二級河川松倉水系鮫川支流の七五郎沢川の右岸段丘上、標高約 86.5～93.0m の七五郎沢川へ下る無名の沢に面して立地しています。

調査の結果、遺構は縄文時代中期末から後期初頭の竪穴住居跡 5 軒、土坑 42 基、落とし穴 1 基、焼土 2 か所を確認しました。竪穴住居跡は調査区東側の沢に面した斜面部に構築され、形態が分かるものは 2 軒あり、いずれも卵形をしています。炉の形態は、石を方形に囲んだ石囲炉と地面に直接火を焚いた地床炉の 2 種類があり、そのうち、石囲炉の炉石には大型の石皿が転用されていたものもありました。

遺物は、縄文時代後期・晩期、続縄文時代前半の土器や石器が約 3,300 点出土しました。土器は、タガ状の貼付けや縄目の圧痕、網目状文、円形文・渦巻入組み文などの沈線文を特徴とする縄文後期前半のものが主体になっています。石器は、石鏃、スクレイパー、石錐、石斧、すり石などが出土しています。

報告書の刊行は平成 25 年度内を予定しています。



作業風景



縄文時代中期末の竪穴住居跡

この遺跡についてのお問い合わせは

函館市教育委員会生涯学習部文化財課埋蔵文化財担当 へ

所在地：函館市白尻町 551-1(函館市縄文文化交流センター内)

電話：0138-25-5113

URL：http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/board_of_edu/lifelong_learning/cultural_assets/

調査理由：開発事業(河川)

調査地：函館市桔梗町 24-1 ほか

調査主体：函館市教育委員会

調査実施：特定非営利活動法人 函館市埋蔵文化財事業団

調査期間：平成 25 年 8 月 16 日～11 月 20 日

調査面積：2,478 m²

調査の概要

遺跡は函館平野に面した標高 20～30m ほどの河岸段丘上に位置します。古くから北海道南部の円筒土器文化を代表する大規模集落跡として知られ、常盤川左岸の台地上に推定 19 万 m² の規模でひろがっています。

遺構は常盤川寄りに集中して検出されました。内訳は、竪穴住居跡 16 軒、土坑 28 基、落とし穴 5 基、焼土 1 か所です。住居跡からは縄文時代中期のサイベ沢 V 式土器、同 VII 式土器、榎林(えのきばやし)式相当土器が出土しています。長軸約 6m の隅丸長方形のものが 1 軒あり、覆土からサイベ沢 VII 式土器を主体として多量の遺物が出土しました。土器を埋設し、炉として使用した埋甕炉(うめがめろ)や中期後葉の住居跡に特徴的な先端ピット類似施設を伴う住居跡もあります。土坑にはフラスコ状(2 基)や長径 1 m 前後で長楕円形・隅丸方形のものがああります。後者の多くは覆土が埋戻しで、遺物は伴っていません。

遺物は 6,696 点出土し、ほとんどが遺構からの出土です。縄文中期の土器や各種石器類、土製円盤(どせいえんばん)、板状の岩偶(がんぐう)状石製品、軽石製品などがあります。報告書の刊行は平成 25 年度内を予定しています。



縄文時代中期の竪穴住居跡



竪穴住居跡から出土した土器

この遺跡についてのお問い合わせは

函館市教育委員会生涯学習部文化財課埋蔵文化財担当 へ

所在地：函館市臼尻町 551-1(函館市縄文文化交流センター内)

電話：0138-25-5113

URL：http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/board_of_edu/lifelong_learning/cultural_assets/

はこだてし ききょうに いせき
函館市 桔梗 2 遺跡 (登録番号 B-01-110)

調査理由：開発事業(その他開発・商業施設内道路)

調査地：函館市桔梗町 408-4

調査主体：函館市教育委員会

調査実施：特定非営利活動法人 函館市埋蔵文化財事業団

調査期間：平成 25 年 4 月 15 日～4 月 26 日

調査面積：260 m²

調査の概要

遺跡は、函館市桔梗町を流れる石川の右岸、標高約 29m の河岸段丘上に立地します。石川へと下る東西方向の沢地形によって南北に分かれて集落跡の存在したことが過去に 2 回行われた調査からわかっています。今回の調査は石川に向かって舌状に張り出した地形の付け根部分にあたり、平成 19 年度に調査した地区の西側に隣接しています。平成 19 年度には調査区の西半部で竪穴住居跡 1 軒、土坑 1 基、落とし穴 2 基が検出されましたが、今回の調査では遺構は検出されず、舌状地形の付け根付近が集落の西端部であることが再確認されました。

遺物は土器が 44 点、石器類 11 点、総数 55 点が出土しました。土器は縄文中期(サイベ沢Ⅶ式相当土器)が主体ですが、他に縄文早期や前期のものも若干みられます。石器は、スクレイパー、すり石などがあります。



調査区の全景



土層堆積

この遺跡についてのお問い合わせは

函館市教育委員会生涯学習部文化財課埋蔵文化財担当 へ

所在地：函館市白尻町 551-1(函館市縄文文化交流センター内)

電話：0138-25-5113

URL：http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/board_of_edu/lifelong_learning/cultural_assets/

はこだてし とどほっけいせき
函館市 榎法華遺跡 (登録番号 B-01-219)

調査理由：開発事業(住宅)

調査地：函館市新八幡町 76-3

調査主体：函館市教育委員会

調査期間：平成 25 年 4 月 10 日～4 月 12 日

調査面積：56 m²

調査の概要

遺跡は、函館市中心部から北東に 25 km ほど離れた太平洋に面した榎法華地域に位置し、八幡川左岸の標高約 15m の海岸段丘上に立地しています。

今回の調査区には過去に建物が建てられており、それに伴う攪乱が深くまで及んでいました。調査の結果、遺構は重複した土坑 2 基を検出しました。いずれも平面形は楕円形で、断面形は皿状を呈しています。帰属時期は周囲の出土遺物から縄文時代後期後半と推測されます。

遺物は土器や石器など約 1,700 点で、縄文後期後半から晩期および続縄文時代前半に属します。土器は後期の手稲式、晩期の大洞 B 式・A 式、続縄文時代の恵山式などが出土し、剥片石器は石錐、スクレイパーやつまみ付ナイフなどが、礫石器は石斧、たたき石や石皿などがあります。



遺跡の位置

この遺跡についてのお問い合わせは

函館市教育委員会生涯学習部文化財課埋蔵文化財担当 へ

所在地：函館市臼尻町 551-1(函館市縄文文化交流センター内)

電話：0138-25-5113

URL：http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/board_of_edu/lifelong_learning/cultural_assets/

調査理由：開発事業(道路)

調査地：函館市亀田中野町 65

調査主体：函館市教育委員会

調査実施：特定非営利活動法人 函館市埋蔵文化財事業団

調査期間：平成 25 年 10 月 10 日～11 月 25 日

調査面積：1,252 m²

調査の概要

遺跡は、函館市亀田中野町を南西方向に流下する二級河川常盤川水系中野川の右岸に形成された段丘上に立地しています。

調査の結果、縄文時代中期の竪穴住居跡 1 軒、土坑 16 基、焼土 6 か所を確認しました。これらの遺構は平坦部から斜面変換部に集中しています。遺物は縄文時代中期中頃の土器(サイベ沢Ⅶ式)や石器が約 2,100 点出土しています。石器は、石鏃、石槍、石錐、ナイフ類、石斧、たたき石、すり石などが平坦部を中心とした範囲から出土しています。斜面にも遺物の出土が散漫に見られますが、これらは竪穴住居等が構築された平坦部から流れ込んだものと思われます。

斜面の下部から遺構が確認されなかったことやこれまで確認された遺構の分布状況からみて、集落の主体部は中野川に面した南西側の平坦部に広がると考えられます。

報告書の刊行は、平成 25 年度内を予定しています。



作業風景



縄文時代中期の竪穴住居跡

この遺跡についてのお問い合わせは

函館市教育委員会生涯学習部文化財課埋蔵文化財担当 へ

所在地：函館市臼尻町 551-1(函館市縄文文化交流センター内)

電話：0138-25-5113

URL：http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/board_of_edu/lifelong_learning/cultural_assets/

まつまえちょう しせきまつまえ ししろあとふくやまじょうあと
松前町 史跡松前氏城跡福山城跡 (登録番号 B-02-53)

調査理由：史跡整備

調査地：松前郡松前町字松城 303

調査主体：松前町教育委員会

調査期間：平成 25 年 7 月 1 日～9 月 30 日

調査面積：42 m²

調査の概要

福山城は前身となる福山館を改修・補強し、安政元(1854)年に完成した旧日本式城郭で、外国船対策(海防)のために、海に面した三ノ丸に 7 基の台場(砲台)を持つという特色があります。明治 8(1875)年までに三層天守と本丸御門、本丸御殿を残して城内の石垣や建物が取り壊されました。三層天守は一時国宝となりましたが昭和 24(1949)年に焼失し、現在は本丸御門が重要文化財として保存されています。昭和 50 年度には第一次保存管理計画を、平成 8 年度には第二次保存管理計画を策定し、これらに基づき史跡整備事業が進められています。

今年度は、寺町地区にある光善寺庭園の遺構確認調査を行いました。調査前に地中レーダー探査を実施し、地下の状況のある程度把握した上で遺構調査を行った結果、景石の抜き取り痕とみられる遺構や築山の構築状況が確認されました。過年度の調査成果を踏まえると、光善寺庭園は幕末に構築されたものの、後に庭池が掘り返され、そこに明治 36(1903)年の本堂火災の残滓を埋め、新たに庭池を構築したことが想定されます。ただし、築山については、築庭当時の形状を留めていると考えられます。

報告書は平成 26 年 3 月に刊行の予定です。



地中レーダー探査状況



遺構確認調査状況

この遺跡についてのお問い合わせは **松前町教育委員会** へ (電話：0139-42-3060)

松前町の遺跡をもっと知りたい方は **松前町郷土資料館** へ

所在地：松前郡松前町字神明 30

電話：0139-42-3060

ほくとし もへじよんいせき
北斗市 茂辺地4遺跡 (登録番号 B-06-72)

調査理由：開発事業（道路）

調査地：北斗市茂辺地 821

調査主体：北斗市教育委員会

調査期間：平成 25 年 7 月 25 日～11 月 7 日

調査面積：3,786 m²

調査の概要

遺跡は、J R 茂辺地駅から 1 km ほど西側、茂辺地川から見て南側の海岸段丘上、標高 67～75m に立地します。発掘調査が必要な遺跡の範囲は約 21,000 m² ですが、今年度はそのうち南側の 3,786 m² について調査を行いました。

今年度の調査区は、段丘の平坦部とそこから下り南端で当別側へと続く沢に接する斜面部ですが、斜面部側を中心に遺構が集中して見つかっています。内訳は、竪穴住居跡 10 軒、竪穴状遺構 1 基、土坑 46 基、屋外炉 2 基、焼土 49 か所です。

遺物は約 27,000 点出土しており、うち約 8 割が土器です。縄文時代中期中ごろのものが中心ですが、昨年度の調査で多く出土した後期の初めごろの土器も見つかっています。石器は、剥片石器では石鏃・石槍・スクレイパーなど、礫石器では石斧・すり石・石皿・台石などが出土しています。その他、板状土偶や石刀・三角形石製品など、当時の人びとの「こころ」にかかわる道具も出土しています。

大まかに分けて、斜面の上側で縄文時代中期中ごろ、下側で縄文時代後期の初めごろの遺構・遺物が見つかっており、それぞれの時期のムラが存在したと考えられます。



住居跡(縄文時代中期)



板状土偶(縄文時代中期)

この遺跡についてのお問い合わせや北斗市の遺跡をもっと知りたい方は

北斗市教育委員会 へ

所在地：北斗市中野通 2 丁目 13-1

電話：0138-74-2000

調査理由：開発事業（道路）

調査地：北斗市当別 697-55

調査主体：北斗市教育委員会

調査期間：平成 25 年 7 月 25 日～11 月 7 日

調査面積：1,443 m²

調査の概要

遺跡は J R 茂辺地駅から約 1.5km 西側、茂辺地川右岸の標高 70～74m の海岸段丘上にあります。北東に当別側へと下る沢が走り、対岸に茂辺地 4 遺跡が立地します。平成 24 年 11 月に新たに発見された遺跡で、調査を必要とする範囲は 4,247 m²です。

今年度は、そのうち北西側の 1,443 m²について発掘調査を行いました。この遺跡は、試掘調査により、当別側へと下る沢に挟まれた舌状の台地上にひろがっていることがわかっていますが、今年度の調査区はその基部、根もとの部分にあたります。

遺構は、竪穴住居跡 1 軒、土坑 18 基、落とし穴 2 基、焼土 48 か所が見つかりました。竪穴住居跡は小型で、上からみると円形です。この住居のすぐそばから、縄文時代中期後半の完形土器の埋められた土坑が見つっています。遺物は、縄文時代中期中ごろ～後半を中心とした土器と石鏃・スクレイパーなどの剥片石器やすり石・北海道式石冠・石皿などの礫石器、総計 35,000 点が出土しています。

遺構・遺物の分布は南東側に特に集中しています。このことから、そちらの方向にのびる舌状部、来年度に調査予定の範囲に遺跡がひろがっていると予想されます。



調査区空撮



土器の埋められた土坑

この遺跡についてのお問い合わせや北斗市の遺跡をもっと知りたい方は

北斗市教育委員会 へ

所在地：北斗市中野通 2 丁目 13-1

電話：0138-74-2000

もりまち しせきわしのきいせき
森町 史跡鷺ノ木遺跡 (登録番号 B-14-35)

調査理由：史跡整備

調査地：茅部郡森町字鷺ノ木町 503-6

調査主体：森町教育委員会

調査期間：平成 25 年 7 月 8 日～11 月 15 日

調査面積：113 m²

調査の概要

遺跡は、森町市街地の西方約 4 km、内浦湾の海岸線から直線距離で約 1 km 内陸に位置します。桂川支流の上毛無沢川と下毛無沢川に挟まれた標高約 70m の舌状台地と、それらの川に面した標高 37～50m 前後の緩斜面、台地と緩斜面をつなぐ比高約 15m の斜面に立地しています。舌状台地上には環状列石や竪穴墓域が構築され、その東側から配石遺構や竪穴住居址が見つかっています。今年度は平成 20 年度の調査時に一部検出していた竪穴住居址を再調査し、周辺にも同様の住居址が存在するかどうかの確認を行いました。

竪穴住居址からは石組炉と配石や柱穴と思われる小ピットなどが検出され、遺物は主に縄文時代後期前葉の土器が出土しました。町内では鷺ノ木 4 遺跡や石倉 1 遺跡、濁川左岸遺跡でも配石を伴う同時代の竪穴が検出されています。

本遺跡では平成 26 年度まで周辺の調査を行い、報告書を刊行する予定です。



竪穴住居址



石組炉と配石

この遺跡についてのお問い合わせは **森町教育委員会** へ (電話：01374-2-2186)

森町の遺跡をもっと知りたい方は **森町遺跡発掘調査事務所** へ

所在地：茅部郡森町字森川町 292-24

電話：01374-3-2240

e-mail：mori-washi-site@festa.ocn.ne.jp

開館時間：9時から16時まで

休館日：土日祝日、年末年始

よ いちちよう のぼりちようよん い せき
余市町 登町 4 遺跡 (登載番号 D-19-27)

調査理由：開発事業（道路）

調査地：余市郡余市町登町 306-1・2

調査主体：余市町教育委員会

調査期間：平成 25 年 6 月 1 日～10 月 31 日

調査面積：3,000 m²

調査の概要

遺跡は、フルーツの里余市町の東側、海岸線から 1.3 km ほど内陸に入ったあたりの、登川右岸にある標高約 30～40m の丘陵の緩い斜面に位置しています。余市町は遺跡の多い町としても知られ、当遺跡の周辺にも数多くの遺跡があり、国指定史跡「大谷地貝塚」や道指定史跡「西崎山環状列石」など、これまでも度々発掘調査が行われてきました。本遺跡では昨年度に初めて発掘調査を実施し、今年度は隣接する範囲を調査しました。

今年度の発掘調査では、縄文時代早期の土器片とそれに伴う石器類を中心に約 13,000 点の遺物が出土しました。土器片は表面の摩耗・劣化したものが多く、接合作業を行いました。石器は石鏃、つまみ付きナイフ、石錐、石斧などの定型的な器種が出土したほか、黒曜石の剥片の集中する小範囲が 2 か所検出され、接合するものも確認されたことから、遺跡内での加工作業が想定されます。

平成 25 年度の発掘調査報告書は平成 26 年 2 月末に刊行の予定です。平成 26 年度は、平成 24・25 年度に調査を行った範囲の北側の発掘調査を行う予定です。



調査区遠景



出土した石器

この遺跡についてのお問い合わせは

余市水産博物館 へ

所在地：余市郡余市町入舟町 21

電話：0135-22-6187

開館時間：9 時から 16 時 30 分まで

閉館日：月曜日、祝日の翌日、12 月上旬～翌年 4 月中旬(冬期休館、休館中は平日であれば、お問い合わせに対応いたします)

しもかわちょう かみなよろちやしあと
下川町 上名寄チャシ跡 (登録番号 F-21-1)

調査理由：開発事業（河川改修）

調査地：上川郡下川町上名寄 11 河川敷

調査主体：下川町教育委員会

調査期間：平成 25 年 7 月 22 日～8 月 30 日

調査面積：1,000 m²

調査の概要

上名寄チャシ跡は下川町市街地から西に 7 km ほど離れた下川町と名寄市との境界の名寄川左岸段丘上に位置しています。この段丘は東から西に流れる名寄川によって削られ、南の丘陵から北に舌状にのびた形をしており、遺跡はその先端部分にあります。

平成 25 年度の調査では、北海道教育委員会による事前の試掘調査結果に基づき、遺構確認のためのトレンチ調査とチャシ跡の地形測量を実施しました。調査の結果、明らかなチャシ関連の遺構については検出されませんでした。炭化物を伴う炉跡が検出され、現在、年代を測定しているところです。また、壕と思われた地形は開拓以降の用水路の跡であることがわかりました。

遺物は、遺構確認のためのトレンチの一部や表土から黒曜石、メノウ質の岩石(珪化岩)を素材とした、削器や剥片類が百数十点ほど出土し、この遺跡の一部にアイヌ期以前の遺跡のあることがわかりました。現在、登録手続き中です。

報告書は平成 25 年度に刊行します。



調査の様子



遺物の出土状況

この遺跡についてのお問い合わせや下川町の遺跡をもっと知りたい方は

下川町教育委員会生涯学習グループ へ

所在地：上川郡下川町幸町 95 番地

電話：01655-4-2511(内線 516)

e-mail：s-syougai@town.shimokawa.hokkaido.jp

はまどんべつちょう ぶ た う す い せ き
浜頓別町 ブタウス遺跡 (登録番号 H-03-20)

調査理由：開発事業(道路)

調査地：枝幸郡浜頓別町字頓別 3180-1, 3181

調査主体：浜頓別町教育委員会

調査期間：平成 25 年 5 月 20 日～10 月 19 日

調査面積：2,859 m²

調査の概要

遺跡は浜頓別町市街地から南東に約 6km、オホーツク海岸に形成された標高 2～6m の砂丘上に位置します。遺跡の西部は低湿地に面し、低湿地を挟んだ約 200m 内陸側の段丘上には擦文時代の集落遺跡である豊寒別段丘遺跡が所在します。

昨年度は 1,500 m² を調査し、集石炉 24 基などの遺構を検出しました。今年度の調査で検出された遺構は墓壇 11 基、集石炉 14 か所、焼土 3 か所、土坑 14 基、小穴 174 基です。遺構の分布傾向として、墓壇が集中する墓域と集石炉等の集中する作業域は明瞭に分かれることがわかりました。また、小穴は一部のものを除き作業域に散在しますが、旧汀線際から 78 基が列状にまとまって検出されました。

遺物は土器、石器、礫等で、総数は 14,072 点です。土器の大半は文様や器形の特徴から縄文晩期の幣舞式併行のものと考えられますが、続縄文期(宇津内式)の土器も少量出土しました。石器は剥片石器が多く、礫石器は僅かしか出土しませんでした。剥片石器には石鏃・石槍・削器・搔器などもありますが、剥片の一部に刃部をもつものや不定形の剥片に使用痕のあるものが多く出土しました。素材には黒曜石が多く使われ、頁岩(けつがん)・珪質岩(けいしつがん)・石英などもあります。黒曜石の原石やフレイク・チップなども多く出土しており、遺跡内で石器の製作されていた可能性があります。礫石器は石斧・たたき石・砥石などが出土しています。



調査区全景(青：平成 24 年度調査範囲、赤：平成 25 年度調査範囲、白：豊寒別段丘遺跡)



集石炉検出状況

この遺跡についてのお問い合わせは

浜頓別町教育委員会社会教育係 へ

所在地：枝幸郡浜頓別町中央北 2 番地

電話：01634-2-4666

びほろちょう みさといちいせき
美幌町 美里1遺跡 (掲載番号 I-06-39)

調査理由：開発事業（その他建物）

調査地：網走郡美幌町字美幌 7-1～11・8・10, 10-2

調査主体：美幌町教育委員会

調査期間：平成 25 年 6 月 1 日～6 月 3 日

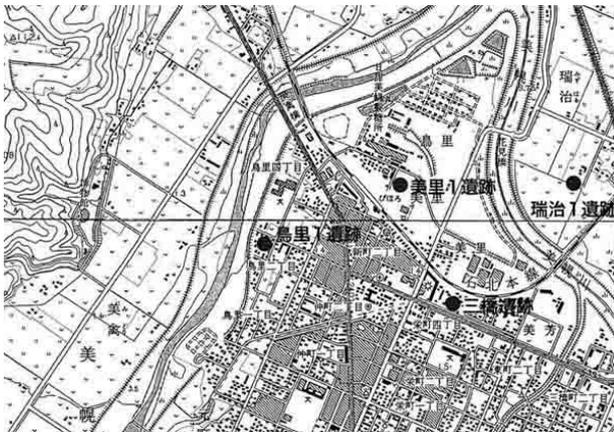
調査面積：54 m²

調査の概要

遺跡は美幌町市街地のやや北側、標高 11m 程の網走川と美幌川に挟まれた、低位段丘上に立地しています。日本甜菜精糖株式会社美幌精糖所の砂糖倉庫新設に伴い、遺跡の範囲を確認する目的で試掘調査を実施しました。

調査では、遺構は確認されませんでした。調査区の西側では 50cm 四方の狭い範囲から黒曜石の剥片が約 300 点出土しました。剥片の中にはチップとよばれる細かなかけらが含まれていないことから、石器作りの材料として適当な大きさのものを集めて置かれたものと考えられます。調査区の南側からは縄文時代早期のものと思われる土器片が出土しています。

報告書は平成 26 年 3 月に刊行の予定です。



位置図



近景

この遺跡についてのお問い合わせや美幌町の遺跡をもっと知りたい方は

美幌博物館 へ

所在地：網走郡美幌町字美禽 253-4

電話：0152-72-2160

開館時間：9時30分から17時まで

休館日：月曜日・国民の祝日の翌日、年末年始(12月30日～1月6日)

びほろちょう みとみろくいせき
美幌町 美富6遺跡 (掲載番号 I-06-126)

調査理由：開発事業（農業関連(心土破碎)）

調査地：網走郡美幌町字美富 526-2・3

調査主体：美幌町教育委員会

調査期間：平成 25 年 9 月 3 日

調査面積：10 m²

調査の概要

遺跡は美幌町市街地から南に約 4km、標高 65m 程の網走川右岸、高位段丘上に立地しています。経営体育成基盤整備事業美幌豊栄地区の心土破碎工事に伴い、遺跡の範囲を確認する目的で試掘調査を実施しました。

遺跡は畑地として利用されていることから、耕作によって大部分が攪乱された状態でしたが、部分的に暗褐色の腐植土層が確認されました。調査では遺構は確認されませんでした。遺物の点数は 409 点で、土器や石鏃・石槍・削器などの石器が耕作土からのみ出土しました。遺跡の年代は、出土した土器から縄文時代中期の末頃と推測されます。

報告書は平成 26 年 3 月に刊行の予定です。



位置図



近景

この遺跡についてのお問い合わせや美幌町の遺跡をもっと知りたい方は

美幌博物館 へ

所在地：網走郡美幌町字美富 253-4

電話：0152-72-2160

開館時間：9時30分から17時まで

休館日：月曜日・国民の祝日の翌日、年末年始(12月30日～1月6日)

びほろちょう こまおいきゅう いせき
美幌町 駒生9遺跡 (登録番号 I-06-127)

調査理由：開発事業（農業関連(暗渠排水)）

調査地：網走郡美幌町字駒生 123-1, 128-1

調査主体：美幌町教育委員会

調査期間：平成 25 年 9 月 27 日～10 月 2 日

調査面積：66 m²

調査の概要

遺跡は美幌町市街地から南東に約 3km、標高 50m 程の駒生川左岸に隣接した緩斜面上に立地しています。経営体育成基盤整備事業美幌豊栄地区の暗渠排水工事に伴い、遺跡の範囲を確認する目的で試掘調査を実施しました。

遺跡は畑地として利用されていることから、耕作によって大部分が攪乱された状態でした。調査は、駒生川に面した低地と調査区中央部南側の緩斜面上で、土層を確認する試掘坑を掘削しました。調査の結果、低地では駒生川の氾濫に由来すると思われる粘土や川砂の層が確認されましたが、遺構・遺物は見られませんでした。緩斜面上では、既に耕作によって攪乱された状態で、調査では遺構は確認されませんでした。遺物の点数は 262 点で、緩斜面上を中心に耕作土からのみ出土しました。遺跡の年代は、出土した土器から縄文時代後期末～晩期頃と推測されます。

報告書は平成 26 年 3 月に刊行の予定です。



位置図



近景

この遺跡についてのお問い合わせや美幌町の遺跡をもっと知りたい方は

美幌博物館 へ

所在地：網走郡美幌町字美禽 253-4

電話：0152-72-2160

開館時間：9時30分から17時まで

休館日：月曜日・国民の祝日の翌日、年末年始(12月30日～1月6日)

びほろちょう びわにいせき
美幌町 美和2遺跡 (登録番号 I-06-128)

調査理由：開発事業（農業関連(暗渠排水)）

調査地：網走郡美幌町字美和 128・129

調査主体：美幌町教育委員会

調査期間：平成 25 年 9 月 24 日～9 月 26 日

調査面積：35 m²

調査の概要

遺跡は美幌町市街地から南西に約 4km、標高 40m 程の網走川左岸の緩斜面上に立地しています。農地整備事業美幌昭美地区の暗渠排水工事に伴い、遺跡の範囲を確認する目的で試掘調査を実施しました。

遺跡は畑地として利用されていることから、耕作によって大部分が攪乱された状態でしたが、調査区の北側では部分的に暗褐色の腐植土層が確認されました。調査では遺構は確認されませんでした。遺物の点数は 234 点で、土器や石鏃・石槍・削器などの石器が耕作土からのみ出土しました。遺跡の年代は、出土した土器から縄文時代中期の末頃と推測されます。

報告書は平成 26 年 3 月に刊行の予定です。



位置図



近景

この遺跡についてのお問い合わせや美幌町の遺跡をもっと知りたい方は

美幌博物館 へ

所在地：網走郡美幌町字美和 253-4

電話：0152-72-2160

開館時間：9時30分から17時まで

休館日：月曜日・国民の祝日の翌日、年末年始(12月30日～1月6日)

つべつちよう ちょうない いせきはつくつちよう さとうじぎょう
津別町 町内遺跡発掘調査等事業

調査理由：開発事業（農業関連）

調査主体：津別町教育委員会

遺跡名	調査地	調査期間	調査面積
活汲 3 遺跡(I-07-10)	津別町字活汲 630-1	H25. 10. 8	84 m ²
活汲 4 遺跡(I-07-11)	津別町字活汲 754-1 ほか	H25. 11. 15	76 m ²
タッコブ 5 遺跡(I-07-61)	津別町字最上 67-2 ほか	H25. 5. 7	26 m ²
タッコブ 6 遺跡(I-07-62)	津別町字最上 57-1	H25. 11. 12～13	276 m ²
美都 5 遺跡(I-07-64)	津別町字美都 85-1 ほか	H25. 11. 16	52 m ²
恩根 3 遺跡(I-07-22)	津別町字恩根 391-1 ほか	H25. 11. 5～7	364 m ²
恩根 5 遺跡(I-07-63)	津別町字恩根 210-1 ほか	H25. 11. 4	104 m ²
可能性地	津別町字活汲 208-1 ほか	H25. 10. 8～9	144 m ²
可能性地	津別町字最上 78-1 ほか	H25. 11. 15	34 m ²

調査の概要

本調査は国営農地再編整備事業に伴う試掘調査で、平成 24 年度からの継続事業です。各事業実施予定圃場を 20m 間隔で幅 1m×長さ 4m のトレンチをバックホーで掘開し、人力で遺物の調査と遺構の確認を行いました。調査した遺跡は網走川の各支流段丘上にある畑地で、長年の営農活動により削平されて、ほとんど遺物包含層は残っておらず、遺構も確認されませんでした。2 か所の可能性地を除く各遺跡からは地表及び耕作土中から遺物を採取することができました。

活汲 3 遺跡から黒曜石剥片 3、活汲 4 遺跡で黒曜石剥片 3、タッコブ 5 遺跡で黒曜石剥片 3、タッコブ 6 遺跡で続縄文時代の後北 C₂・D 式土器片 9、黒曜石製石槍 1、同搔器片 1、同剥片 7、美都 5 遺跡で黒曜石剥片石核 1、黒曜石剥片 1、恩根 3 遺跡で黒曜石剥片 2、恩根 5 遺跡で黒曜石製削器 1、黒曜石剥片 16 点が採取されました。なお、網走川右岸の各調査区からは自然転礫の白色晶子を含む黒曜石が多数採取されました。報告書は平成 26 年 3 月に刊行の予定です。



活汲 4 遺跡調査状況

これらの遺跡についてのお問い合わせは

津別町教育委員会生涯学習課社会教育グループ へ

所在地：網走郡津別町字豊永 5-1 中央公民館内

電話：0152-76-2713・2721

しゃりちょう ちゃしこつみさきうえいせき
斜里町 チャシコツ岬上遺跡 (登録番号 I-08-21)

調査理由：詳細分布

調査地：斜里郡斜里町ウトロ西地先 1377 林班

調査主体：斜里町教育委員会

調査期間：平成 25 年 9 月 3 日～9 月 17 日

調査面積：20 m²

調査の概要

チャシコツ岬上遺跡は北緯 44° 3′ 53″、東経 144° 58′ 55″ 付近、斜里町ウトロ市街地から斜里町市街地方向へ約 2 km 南西に所在し、オホーツク海に突き出た海岸段丘上に立地しています。この段丘面の平坦地上には約 30 個の竪穴住居跡が確認されています。

本年度の発掘調査は保存を目的とした詳細分布調査で、竪穴住居跡のくぼみの周辺でトレンチ調査を実施しました。調査の結果、オホーツク文化期を主とし、下層に縄文中期の遺物包含層を伴う遺跡であることが確認されました。

遺構はオホーツク文化期の土坑 1 基と配石遺構が確認されました。土坑からは人為的に加工されたと思われる鹿の脛骨等がみつかっています。

遺物の出土点数は、土器 686 点、石器 391 点、骨 134 点、その他(礫・木炭・硬質頁岩(けつがん)製装飾品など)54 点の合計 1,265 点です。主体となる土器は貼付文(はりつけもん)期のオホーツク式土器で、少数ですが縄文中期の土器片も見つかっています。石器は、ナイフ・石鏃・石銛・搔器(そうき)、たたき石などが出土しています。

平成 26 年 3 月に概要報告書を刊行する予定です。



発掘調査風景



配石遺構検出状況

この遺跡についてのお問い合わせは

斜里町立知床博物館

電話：0152-23-1256

ホームページ <http://shir-etok.myftp.org/>

斜里町埋蔵文化財センター

電話：0152-23-2017

ホームページ <http://www13.ocn.ne.jp/~siretoko> へ

しゃりちょう らいぶんいち いせき
斜里町 来運1遺跡 (掲載番号 I-08-61)

調査理由：詳細分布

調査地：斜里郡斜里町字来運 20 番地 5・24

調査主体：斜里町教育委員会

調査期間：平成 25 年 9 月 18 日～10 月 3 日

調査面積：28 m²

調査の概要

来運1遺跡は北緯 43° 50′ 25″、東経 144° 38′ 46″ 付近、斜里町市街地から南方約 10 km、標高約 38～47m の斜里岳の北側山麓を流れる猿間川の左岸段丘面上に立地しています。

平成 16 年度に国営畑地帯総合土地改良パイロット事業に伴う緊急発掘調査が当遺跡で実施され、縄文中期末と考えられる焼けた平地住居跡の炭化材の一部が良好な状態で確認されました。翌年には保存を目的として平地住居跡の全体を調査する学術発掘調査が行われました。本年度の発掘調査は、この平地住居跡の周辺でトレンチ調査を実施しました。

遺構は土坑 1 基で、竪穴住居跡等の大型の遺構は確認できませんでした。土坑の南東側には黄褐色土の広がる箇所があり、平地住居跡に伴う盛土である可能性があります。黄褐色土の下に炭化材が残されているかどうか、土がどこまでの広がりを持つのかを確認するまでには至りませんでした。遺物の出土点数は、土器 2 点(縄文前期・中期各 1 点)、黒曜石の細片 1 点、礫 1 点、木炭 9 点の合計 13 点です。

平成 26 年 3 月に概要報告書を刊行する予定です。



調査区遠景



発掘調査風景

この遺跡についてのお問い合わせは

斜里町立知床博物館

電話：0152-23-1256

ホームページ <http://shir-etok.myftp.org/>

斜里町埋蔵文化財センター

電話：0152-23-2017

ホームページ <http://www13.ocn.ne.jp/~siretoko> へ

しゃりちょう かわかみいち いせき
斜里町 川上 1 遺跡 (登録番号 I-08-190)

調査理由：開発事業（道路）

調査地：斜里郡斜里町字川上 190 番地町道敷地

調査主体：斜里町教育委員会

調査期間：平成 25 年 5 月 23 日～8 月 31 日

調査面積：820 m²

調査の概要

川上 1 遺跡は北緯 43° 51′ 17″、東経 144° 37′ 24″ 付近、斜里町市街地から清里市街地の方向へ約 10 km 南西に所在し、斜里川の右岸段丘上に立地する縄文中期の集落です。

遺物包含層は摩周 b-5 軽石層の直下の黒褐色土で、縄文中期や早期の遺物が出土しています。

遺構は、竪穴住居跡 3 棟、土坑 13 基で、木炭集中や焼土も確認されています。時期は出土した土器などから縄文中期のものと考えられます。

遺物の出土点数は、土器 210 点、石器 530 点、木炭 66 点、その他(礫・骨・種子)8 点の合計 814 点です。土器は、縄文中期のトコロ 6 類式土器が多く、縄文早期の東釧路Ⅲ式土器も出土しています。石器は、黒曜石製のナイフや石鏃、リタッチド・フレイク、砥石やすり石等が出土しています。

平成 26 年度まで調査を行い、平成 27 年 3 月に報告書を刊行する予定です。



発掘調査風景



竪穴住居跡完掘状況

この遺跡についてのお問い合わせは

斜里町立知床博物館

電話：0152-23-1256

ホームページ <http://shir-etok.myftp.org/>

斜里町埋蔵文化財センター

電話：0152-23-2017

ホームページ <http://www13.ocn.ne.jp/~siretoko/>

(登録番号 J-01-29)

調査理由：史跡整備

調査地：室蘭市陣屋町2丁目5番1～6

調査主体：室蘭市教育委員会

調査期間：平成25年8月19日～8月30日

調査面積：32㎡

調査の概要

平成24年11月および12月の暴風雪により、この史跡は大きな被害を受けました。その一つが倒木による土塁の損傷です。

平成25年度の調査はこの損傷の度合いを把握するために実施しました。調査では倒木によりえぐれた範囲をおさえ、土塁の基部の堆積状況を確認しました。史跡に伴う遺物はありませんでしたが、続縄文時代の土器片などを検出しました。

調査報告書は平成25年度内に刊行の予定です。



史跡の被災状況

この遺跡についてのお問い合わせは **室蘭市教育委員会** へ

電話：0143-22-5094

e-mail：syougaigakusyuu@city.muroran.lg.jp

室蘭市の遺跡をもっと知りたい方は **室蘭市民俗資料館** へ

所在地：室蘭市陣屋町2丁目4番25号

電話：0143-59-4922

URL：<http://www.city.muroran.lg.jp/main/shisetsu/minzoku.html>

開館時間：10時から16時まで

閉館日：月曜日・祝日の翌日・年末年始・1月20日～3月19日

むろらんし なかじまちょう いせき
室蘭市 中島町遺跡 (登録番号 J-01-7)

調査理由：詳細分布

調査地：室蘭市中島本町1丁目3番16、9番2

調査主体：室蘭市教育委員会

調査期間：平成25年6月26日～6月27日

調査面積：27 m²

調査の概要

現在、室蘭の市街地に所在する中島町遺跡は、太平洋戦争の前から縄文期の貝塚として知られていた遺跡です。

平成24年度には遺跡の広がりを確認するための調査を行い、縄文時代晩期から続縄文期にかけての貝塚が検出されました。平成25年度も同様の調査を行い、2か年で遺跡が現存する範囲をおおよそ確定することができました。



中島町遺跡の現況

この遺跡についてのお問い合わせは **室蘭市教育委員会** へ

電話：0143-22-5094

e-mail：syougaigakusyuu@city.muroran.lg.jp

室蘭市の遺跡をもっと知りたい方は **室蘭市民俗資料館** へ

所在地：室蘭市陣屋町2丁目4番25号

電話：0143-59-4922

URL：<http://www.city.muroran.lg.jp/main/shisetsu/minzoku.html>

開館時間：10時から16時まで

閉館日：月曜日・祝日の翌日・年末年始・1月20日～3月19日

とまこまいし みさわ いせき
苫小牧市 美沢24遺跡 (登録番号 J-02-273)

調査理由：開発事業（草地造成）
調査地：苫小牧市字美沢 323-1
調査主体：苫小牧市埋蔵文化財センター
調査期間：平成25年8月6日～9月24日
調査面積：5,000 m²

調査の概要

工事立会により落とし穴 24 基を確認しました。落とし穴は長軸 2～3m の溝状のものが 17 基、1～2m 楕円形のものが 7 基で、楕円形のものには底面に杭穴が確認されています。柱穴は 1 個のものが 3 基、2 個のものが 4 基です。



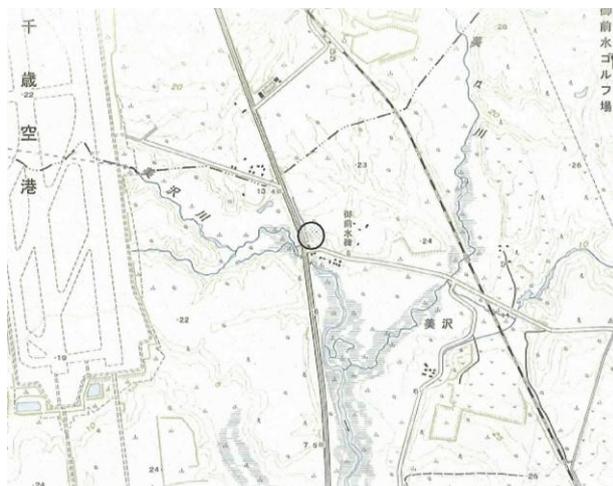
美沢 24 遺跡位置図

とまこまいし びびざかいせき
苫小牧市 美々坂遺跡 (登録番号 J-02-20)

調査理由：開発事業（法面造成）
調査地：苫小牧市字美沢 139, 140-1・2
調査主体：苫小牧市埋蔵文化財センター
調査期間：平成25年11月12日～11月17日
調査面積：80 m²

調査の概要

包含層はほとんどが削平され、支笏降下火山灰混じりのロームが厚く堆積していました。その上に攪乱層が堆積し、遺物のほとんどが攪乱層から出土しています。遺構は風倒木痕のくぼみ部で焼土跡が 1 基確認されています。遺物は縄文晩期の土器 45 点、礫・剥片・碎片 7 点が出土しています。



美々坂遺跡位置図

苫小牧市の遺跡をもっと知りたい方は

苫小牧市埋蔵文化財調査センター へ

所在地：苫小牧市末広町 3 丁目 9 番 7 号

電話：0144-35-2552

休館日：月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)、年末年始

伊達市 カムイタプコプ下遺跡 (登録番号 J-04-89)

調査理由：学術研究(科学研究費助成事業)

調査地：伊達市向有珠町 203-1

調査主体：伊達市教育委員会

調査期間：平成 25 年 9 月 2 日～9 月 7 日

調査面積：110 m²

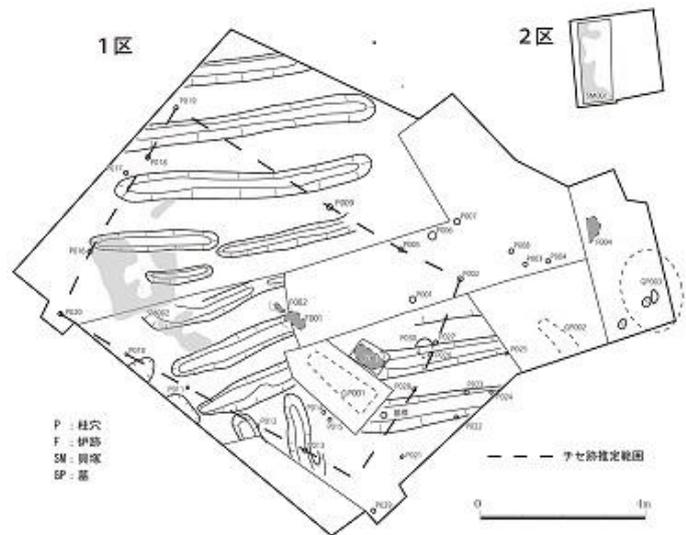
調査の概要

本遺跡は伊達市有珠地区に所在するアイヌ文化期の遺跡で、標高は 3.27～4.01m です。近世アイヌ文化期の人々の暮らしと自然環境の変化との関係を明らかにするために、平成 23 年度から北海道開拓記念館と伊達市噴火湾文化研究所が合同で学術調査(「北海道における小氷期最寒冷期の実態とアイヌ民族との関係」、研究代表者：添田雄二)を行っています。

これまでの調査によって、チセ(アイヌ民族の住居)跡や畑跡、貝塚、墓址などが検出されています。平成 25 年度は、道南・噴火湾沿岸地域で初めて発見されたチセ跡(H001)の規模を把握するための調査を行い、長軸 5 間(8m)×短軸 3 間(6m)であることがわかりました。時期は付属する炉跡から検出された炭化材の年代測定によって 15 世紀後半のものと判断され、16 世紀まで使用されていた可能性があります。また、昨年度の報告で「灰集中」とした遺構がチセに付属する囲炉裏状の炉跡(F003)とわかり、検出された位置などから H001 に関連する炉跡の可能性も考えられます。この他に炉跡(F004)なども発見されており、周囲に複数のチセの存在が窺えます。

本遺跡では生活の中心となる場であるチセ跡や生業・信仰に関わる貝塚・畑跡・墓址が発見され、コタン(集落)の様相の変遷を追うことが出来ます。本遺跡の調査・研究を通して気候の変化や突発的な自然災害が人々にどのような影響を与え、人々がそれらにどのように対応したのかを明らかにしていきたいと考えています。

調査成果の詳細は『北海道開拓記念館研究紀要』第 42 号に掲載の予定です。



遺構配置図

この遺跡についてのお問い合わせは **伊達市噴火湾文化研究所** へ (電話：0142-21-5050)

伊達市の遺跡をもっと知りたい方は

史跡北黄金貝塚公園 へ

所在地：伊達市北黄金町 75

電話：0142-24-2122

URL：<http://www.funkawan.net/kitakoga/ktkgn.html>

開館時間：9時から17時まで(4月1日～11月30日まで期間内無休)

洞爺湖町 栄 2 遺跡 (登載番号 J - 06 - 13)

調査理由：開発事業(住宅)

調査地：洞爺湖町栄町 69-27

調査主体：洞爺湖町教育委員会

調査期間：平成 25 年 8 月 1 日～8 月 15 日

調査面積：85 m²

調査の概要

栄 2 遺跡は洞爺湖町市街地、赤川右岸の標高 23m 前後の段丘上に位置します。海岸から約 600m 離れており、赤川と埋没河川に挟まれた場所にあります。

この遺跡は、平成 23 年度の道路拡幅工事の際に発見された遺跡で、縄文時代の後期中葉ホッケマ式期の盛土遺構や、この時期の土器・石器が多量に出土しました。平成 25 年の調査は、ここから約 20m 海側に離れた地点の調査でしたが、盛土遺構は発見されず、ホッケマ式土器や石器が出土しました。

洞爺湖町内には、縄文時代前期末～後期前葉、後期初頭、晩期中葉にかけてつくられた史跡入江・高砂貝塚を代表として、様々な時期の遺跡が所在します。しかし、後期中葉の遺跡はこれまで発見されたことがなく、町内の遺跡の中でもその空白期間を埋める発見となりました。また、時期によって居住する場所を変えていたことがわかり、時期ごとの土地利用の変化を追うことができる貴重な例にもなりました。

調査報告書は平成 25 年度中に刊行の予定です。



完掘状況

この遺跡についてのお問い合わせは **洞爺湖町教育委員会** へ (電話：0142-74-3010)

洞爺湖町の遺跡をもっと知りたい方は **洞爺湖町入江・高砂貝塚館** へ

所在地：洞爺湖町高砂町 44 番地

電話：0142-76-5802

開館時間：9 時から 17 時まで

閉館日：月曜日・祝日の翌日、冬期(12 月～3 月)休館

あつまちょう しよろまいちいせき
厚真町 ショロマ1遺跡 (登録番号 J-13-81)

調査理由：開発事業(ダム)

調査地：勇払郡厚真町字幌内 93-1 ほか

調査主体：厚真町教育委員会

調査期間：平成 25 年 5 月 14 日～10 月 31 日

調査面積：8,933 m²

調査の概要

遺跡は厚真川河口から約 35km、厚真市街地から約 18km の厚真川上流域にあり、支流のショロマ川との合流点、標高約 68m の河岸段丘上の平坦面に立地しています。縄文時代前期末葉と後期初頭が主体となる遺跡で、他に縄文早期～晩期、続縄文文化期、擦文文化期、アイヌ文化期の各時代の遺物が出土しています。

アイヌ文化期の遺構は、平地式住居跡 1 軒、灰集中 3 か所、集中区 1 か所、杭列跡 1 条などがあります。平地式住居跡は被覆する黒色土の厚さから中世アイヌ文化期の所産と考えられ、長軸上に炉跡が 2 か所あり、南隅と西隅には棒状礫の集中が認められます。集中区からは一文字湯口の内耳鉄鍋が出土しています。

縄文時代の遺構は堅穴住居跡 16 軒、Tピット 50 基、土坑墓 29 基、土坑 27 基、焼土 30 か所、土器集中 16 か所、礫集中 10 か所で、調査区の南側斜面に捨て場と思われる遺物集中区を検出しています。堅穴式住居跡のうち 4 軒は掘り込みが浅く石組み炉を伴うもので後期初頭、12 軒は形状からほぼ同一時期(前期後葉)のものと考えられます。後者のうち 3 軒は長軸が 10m を超える大型住居で、1 軒の床面から円筒下層 d2 式土器が出土しています。遺物の主体は後期初頭の余市式土器で、包含層中から丸のみ形石斧 1 点、礫集中から棍棒形石器 2 点が出土しています。棍棒形石器は道北・道東・道央にみられ、青竜刀形石器との関連が指摘される珍しい石器です。調査報告書の刊行は平成 26 年度を予定しています。



上空からのショロマ1遺跡周辺



棍棒形石器

この遺跡についてのお問い合わせや厚真町の遺跡をもっと知りたい方は

厚真町教育委員会生涯学習課社会教育グループ へ

所在地：勇払郡厚真町京町 165-1

電話：0145-27-2495

e-mail：atsuma.hakkutsu@bz01.plala.or.jp

あつまちょう しよろまにいせき
厚真町 ショロマ2遺跡 (掲載番号 J-13-92)

調査理由：開発事業(ダム)

調査地：勇払郡厚真町字幌内 96-1 ほか

調査主体：厚真町教育委員会

調査期間：平成 25 年 6 月 18 日～10 月 31 日

調査面積：2,305 m²

調査の概要

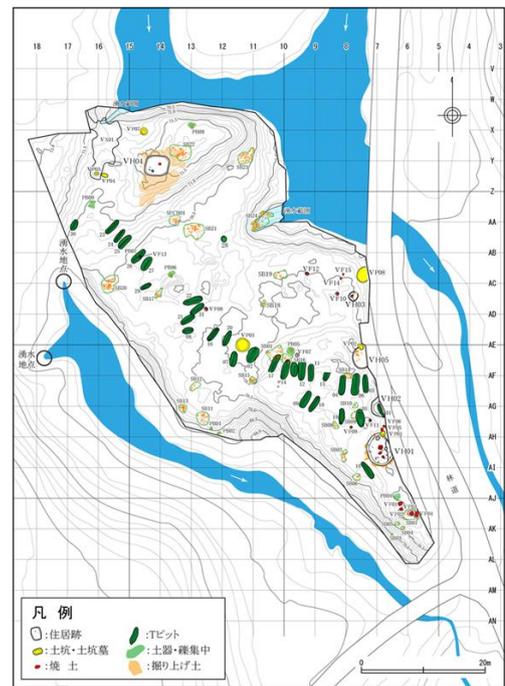
遺跡は厚真川河口から約 35km の厚真川上流域、本流と支流のショロマ川との合流点から約 450m さかのぼった、標高約 70.0～71.5m の河岸段丘上に立地しています。段丘面は 2 か所の湧水地点からの沢状地形に挟まれた半島状の地形を成しています。

約 4,500 年前の縄文時代中期後半や約 4,000 年前の後期初頭～前葉にかけての遺構・遺物が数多く出土し、早期後葉・前期前葉・中期後半・後期初頭～前葉の遺物も出土しています。遺構は、中期中頃の萩ヶ岡式土器群の時期にあたる竪穴住居跡 5 軒のほか、赤黒く焼け焦げた破碎礫で構成される前期前半から中期後半にかけての礫集中や大型の板状礫を伴う後期前葉の礫集中が 24 か所、屋外の焚き火跡 13 か所、落とし穴 31 基などがあります。落とし穴のうち 28 基は約 50m にわたって帯状に連なって見つかりました。シカ道に設置されたと思われる、縄文時代からシカの多く棲息していた地域だったことがうかがえます。遺物は中期中頃の萩ヶ岡 1 式～天神山式土器が最も多く、後期初頭から前葉にかけての片岩製の棍棒形石器の基部片 1 点も出土しています。

調査報告書の刊行は平成 26 年度の予定です。



石組炉を伴う縄文中期中頃の竪穴住居跡



遺構配置図

この遺跡についてのお問い合わせや厚真町の遺跡をもっと知りたい方は

厚真町教育委員会生涯学習課社会教育グループ へ

所在地：勇払郡厚真町京町 165-1

電話：0145-27-2495

e-mail：atsuma.hakkutsu@bz01.plala.or.jp

あつまちょう しよろまさんいせき
厚真町 ショロマ3遺跡 (登録番号 J-13-121)

調査理由：開発事業(ダム)

調査地：勇払郡厚真町字幌内 96-1 ほか

調査主体：厚真町教育委員会

調査期間：平成 25 年 5 月 14 日～8 月 30 日

調査面積：1,350 m²

調査の概要

遺跡は厚真川河口から約 35km の厚真川上流域、本流と支流のショロマ川との合流点から約 400m さかのぼった、標高約 80～83m の東向き緩斜面の河岸段丘上に立地しています。

縄文時代後期初頭～前葉(約 4,000 年前)と擦文時代後期(約 900 年前)の遺構・遺物が検出されており、縄文早期後葉・前期中葉・中期後半、続縄文時代中葉の遺物も出土しています。

上層の黒色土からは擦文後期の焼き火跡や、棒状礫・土器、短甲の一部と思われる、古墳・奈良時代からの伝世品の可能性のある製品の集中が見つかりました。鋳留めの薄い鉄板を矧ぎ合せた鎧(よろい)は本州から入手されたもので、道内でも出土例が少なく、貴重なものだったと思われます。このほか、続縄文の中ごろ(約 2,000 年前)の土坑墓も見つかりました。お墓には 3 体の人骨が仰向けの屈葬で埋葬されており、黒曜石や片岩製の石鏃・ナイフ・石斧が合わせて 113 点出土しました。お墓の底には直径約 5cm の杭跡が人骨を囲む方形の配置で 4 か所見つかりました。

下層の黒色土では縄文早期から後期までの土器が出土しており、後期前葉のタブコブ式土器(約 3,800 年前)がまとまって出土しています。遺構は石組炉をもつ堅穴住居跡 1 軒、落とし穴 7 基、石組炉 2 か所、土器集中 14 か所などが見つかりました。落とし穴は楕円形タイプで掘り上げた土砂を周囲に確認することができ、ほとんどが底面に杭跡の残るものですが、配列などは確認できませんでした。

調査報告書は平成 26 年 3 月に刊行の予定です。



短甲(上層の黒色土から出土)



土坑墓の副葬品(続縄文中期)

この遺跡についてのお問い合わせや厚真町の遺跡をもっと知りたい方は

厚真町教育委員会生涯学習課社会教育グループ へ

所在地：勇払郡厚真町京町 165-1

電話：0145-27-2495

e-mail：atsuma.hakkutsu@bz01.plala.or.jp

むかわ町 ^{ちょう}二宮 ^{にのみやよん いせき}4遺跡 (掲載番号 J-14-99)

調査理由：開発事業（太陽光発電施設設置工事）

調査地：勇払郡むかわ町二宮 427-26

調査主体：むかわ町教育委員会

調査期間：平成 25 年 9 月 18 日～10 月 16 日

調査面積：1,000 m²

調査の概要

二宮 4 遺跡は、二宮地区の標高約 95m の山地にある縄文時代を中心とする遺跡です。平成 25 年度の発掘調査では、縄文時代の土器や石器のほか、焼土群 5 基、焼土跡 6 基、土器集中 3 基が発見されました。焼土跡は同じ場所から複数見つかる場合もあり、縄文人が何度もこの場所を訪れていたようです。出土した土器を観察したところ、縄文時代早期後葉、縄文時代中期後葉～後期前葉、縄文時代後期後葉～晩期前葉、晩期後葉のものがありました。

この他に、本遺跡では室町時代頃の小札(こざね)のかけらもみつかりました。小札は鎧(よろい)の部品のことです。おそらく、当時のアイヌの人達がなんらかの目的で小札を置いていったものと思われます。



焼土群



出土した縄文晩期後葉の土器

この遺跡についてのお問い合わせは

むかわ町教育委員会生涯学習課社会教育グループ へ

所在地：勇払郡むかわ町美幸 2 丁目 88 番地

電話：0145-42-2487

※むかわ町民ポータルサイト「POM」でも発掘調査について詳しく紹介しています。

URL: <http://pomu.town.mukawa.lg.jp/item/2972.htm#moduleid2150>

あつけしちょう おぼろかいづか おかれんぼうしかいづか
厚岸町 尾幌貝塚・オカレンボウシ貝塚 (登録番号 M-03-6-18)

調査理由：詳細分布

調査地：厚岸郡厚岸町住の江4丁目24(尾幌貝塚)・同4丁目13(オカレンボウシ貝塚)

調査主体：厚岸町教育委員会

調査期間：平成25年8月28日～8月30日

調査面積：3㎡(尾幌貝塚)・3㎡(オカレンボウシ貝塚)



遺跡位置図

調査の概要 尾幌貝塚は、厚岸町役場から北に3kmほど離れた、厚岸湖に面する舌状丘陵の西側斜面に位置しています。今回は、平成21年の調査箇所及びその周辺を再確認するために、平成21年調査区とそれに隣接する北東側や南西側にトレンチを設定したところ、いずれも細かく砕かれたカキを主体とする貝層が確認され、大正15年に京都大学の清野博士が調査した箇所であることが判明しました。遺物は、続縄文式や擦文式土器片、削器や石斧等の石器、刺突具や針入れ等の骨角器、鉄製品等64点が出土しました。

オカレンボウシ貝塚は尾幌貝塚の約800m南に位置し、大半は大正時代の鉄道工事や清野博士の調査で乱されています。今回は丘陵の奥の3箇所にトレンチを設定し低地の遺物の分布状態や範囲の確認をめざしましたが、短期間の調査のため遺構の広がりや確認されず、遺物も出土しませんでした。

なお、両方の遺跡へ行くには手続きが必要ですので、必ず海事記念館に連絡してください。

この遺跡についてのお問い合わせは

厚岸町教育委員会生涯学習課海事記念館文化財係 へ

所在地：厚岸郡厚岸町真栄3丁目4番地

電話：0153-52-4040

平成26年3月 発行

市町村における発掘調査の概要 平成25年度(2013年度)

編集・発行

北海道教育庁 生涯学習推進局 文化財・博物館課

〒060-8544 北海道札幌市中央区北3条西7丁目

TEL 011-231-4111 内線35-606